

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所まめの木			
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日		～	令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	児発18名 放デイ20名	(回答者数)	児発12名 放デイ15名
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日		～	令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	児発4名 放デイ5名	(回答者数)	児発4名 放デイ5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年5月3日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援と放課後等デイサービスの多機能型事業所のため、長期間の連携が可能であり、継続した支援や、それぞれの分野の多角的な意見を取り入れることが可能である	利用者の様子や情報共有を事業所全体で行っている。	多角的な視点を持つためにも、児童発達・放課後等デイサービス双方の意見を交換の場を設ける。
2	児童の支援計画や、活動内容等の会議を密に行うことができており、より良い支援を提供できている。	職員間で報告、連絡、相談を密に行い、話をしやすい環境や雰囲気づくりを意識している。	会議の中で、職員が意見を発信しやすい環境を整え、より活発な会議となるように心がけていく。
3	利用児の発達ニーズや保護者のニーズを客観的にとらえ、ニーズに合わせた個別支援計画の作成がされている	保護者からの5領域に関する発達状態の聞き取りと評価を丁寧に行うとともに、個別支援会議を行い、チームで検討を行っている	保護者様と職員の連携をこまめに行い、児童の成長や課題を共有し、より良い支援を保護者様と目指していく。
4	活動プログラムにあわせて、広さの異なる療育室を使用することが可能である	運動や遊びは大きな療育室がある2階を、グループでの活動はそれぞれ1階や3階の療育室を使用しており、食事、クールダウンなどの際にも適した環境づくりをしている	視覚からの刺激を減らし集中できる環境をつくり、器具を整えることで環境の充実を図っている
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業を開始して10年以上経過しているため、建物の環境整備が必要である	建物の構造上の課題解決が困難な部分がある。	課題を改めて洗い出し、1つ1つ課題を改善していく。今後も安全点検を定期的に行っていく。
2	職員の資質向上のための取り組みができていない。	多様化する支援に対応できるよう、又職員による療育の幅を広げられるよう学びが必要となる。	事業所として、研修の実施や学びを促す働きかけが必要となる。
3	紙ベース、手作業での業務がある。保護者との連絡ツールの充実や児童の見守り等も含めたICTの導入ができていない。	作業の効率化、職員間の共有、保護者様との密な連携、より安心して利用できる環境づくりには今後ICTの導入は必要となる。	システムの導入を検討し、作業効率の最適化をするとともに、個々のニーズに適した支援の実施を目指していく。